

箕島球友反撃及ばず

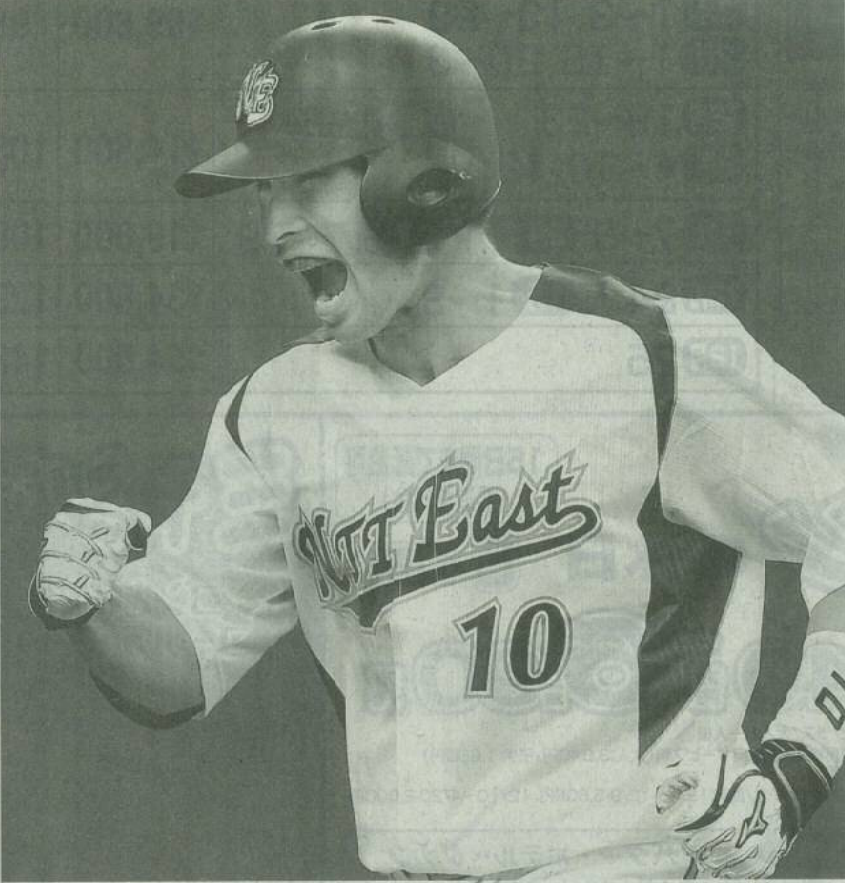
▽第3試合—1回戦(午後6時2分開始)
和歌山箕島球友会(近畿・和歌山)

0000 0000 0230
0200 4001 03X0
105

NTT東日本(関東・東京)
【審判】球審—黒羽 △塁審—西本、飯田、貝沼

NTT東日本は二回、目黒の中前打で2点を先取し四回は喜納の右越え本塁打など6長短打を集めて4点。その後も八回の上田の本塁打など着実に加点した。和歌山箕島球友会は七回に2点を返し、八回は押し出し四球と敬失などで3点を奪ったが、届かなかった。

新人・喜納 大会1号でハッパ



和歌山箕島球友会—NTT東日本 四回裏NTT東日本無死、右越え本塁打を放ち生還し、拳を握りしめる喜納—久保撮影

NTT東 貫禄14安打

NTT東日本の新人・喜納が四回に放った大会第1号アーチは、大量4点を奪う猛打の始まりの合図だった。先頭だった。カットボールにややタイミングをずらされながらも右肩を開かずに振り抜いた。打球は伸びて右翼スタンドへ。「直球狙いでも対応できると思った。多少、泳いでも強く振ることを意識した」。イメージ通りの一打だった。若き5番のひと振りに先輩たちが乗る。10年目の上田、12年目の北道とベテラン勢も適時打を放つなどこの回計6安打を集中させた。2点差に追い上げられた直後の八回には上田が左越え本塁打を放ち、悪い流れを断った。

NTT東日本・飯塚 智広監督 先発の横山は期待通りの投球でさすがだった。継投でバタバタしてしまっただが、逆に良い経験になったと思う。

和歌山箕島球友会・西川忠宏監督 寺岡はかわそつとして変化球を狙われた。選手は相手に気後れしていたが、横山投手の降板で闘志に火が付いた。

点	0	0	0	0	1	0	0	2	0
安打	1	0	1	0	1	1	0	2	0
打数	4	4	3	0	2	4	3	3	4
得点	4	4	3	0	0	2	4	3	3
本塁打	1	0	0	0	0	1	0	0	0
犠牲打	0	0	0	0	0	0	0	0	0
盗塁	0	0	0	0	0	0	0	0	0
失策	0	0	0	0	0	0	0	0	0
残塁	0	0	0	0	0	0	0	0	0
併殺	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三振	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四球	0	0	0	0	0	0	0	0	0
敬失	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	1	0	0	2	2

計 3164

点	0	0	3	0	2	0	1	0	0	2	2
安打	1	1	3	1	0	1	0	1	1	2	2
打数	5	4	1	3	2	0	3	3	4	3	3
得点	5	4	1	3	2	0	3	3	4	3	3
本塁打	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
犠牲打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
盗塁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
失策	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
残塁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
併殺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三振	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四球	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
敬失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	3	0	2	0	1	0	0	2	2

計 361410

振球	9	6	1	2	0	6	0
N	5	4	1	2	1	7	0
投手	寺岡	手岡	回	安	青		
高橋	桐原	3	3	9	6		
横森	山田	3	1	3	3		
沼末	永	1	1	2	1		
		6	2	1	0		
		2	1	1	0		
		2	1	1	0		

▽本塁打 喜納 1 上田 1
①(寺岡) 上田 1
②(桐原) 寺岡 1
③(北道) 北道 1
④(越前) 越前 1
⑤(西口) 西口 1
⑥(矢野) 矢野 1
⑦(三浦博之) 三浦博之 1
⑧(二野) 二野 1
⑨(山口) 山口 1
⑩(矢野) 矢野 1
⑪(三浦博之) 三浦博之 1
⑫(二野) 二野 1
⑬(山口) 山口 1
⑭(矢野) 矢野 1
⑮(三浦博之) 三浦博之 1
⑯(二野) 二野 1
⑰(山口) 山口 1
⑱(矢野) 矢野 1
⑲(三浦博之) 三浦博之 1
⑳(二野) 二野 1
㉑(山口) 山口 1
㉒(矢野) 矢野 1
㉓(三浦博之) 三浦博之 1
㉔(二野) 二野 1
㉕(山口) 山口 1
㉖(矢野) 矢野 1
㉗(三浦博之) 三浦博之 1
㉘(二野) 二野 1
㉙(山口) 山口 1
㉚(矢野) 矢野 1
㉛(三浦博之) 三浦博之 1
㉜(二野) 二野 1
㉝(山口) 山口 1
㉞(矢野) 矢野 1
㉟(三浦博之) 三浦博之 1
㊱(二野) 二野 1
㊲(山口) 山口 1
㊳(矢野) 矢野 1
㊴(三浦博之) 三浦博之 1
㊵(二野) 二野 1
㊶(山口) 山口 1
㊷(矢野) 矢野 1
㊸(三浦博之) 三浦博之 1
㊹(二野) 二野 1
㊺(山口) 山口 1
㊻(矢野) 矢野 1
㊼(三浦博之) 三浦博之 1
㊽(二野) 二野 1
㊾(山口) 山口 1
㊿(矢野) 矢野 1



七回表和歌山箕島球友会2死満塁、西口が左翼線に2点二塁打を放つ(捕手・上田) 三浦博之撮影

西口食らいつく

○：和歌山箕島球友会の西口が2安打。0—7の七回2死満塁の場面で2点適時二塁打を放てば、九回には先頭打者として内野安打で出塁した。これまでも前の打者がつくったチャンスをつぶしたこともあった。この大会はそういうことがないように、つなごうと食らいついたらと西口。それが反撃に結びつき、「下位打線としての仕事はできた」とうなずいた。来年は社会人3年目。「都市対抗に出場できるように攻守に引っ張っていきたい」と決意を新たにしていた。

NTT東日本の新人・喜納が四回に放った大会第1号アーチは、大量4点を奪う猛打の始まりの合図だった。先頭だった。カットボールにややタイミングをずらされながらも右肩を開かずに振り抜いた。打球は伸びて右翼スタンドへ。「直球狙いでも対応できると思った。多少、泳いでも強く振ることを意識した」。イメージ通りの一打だった。若き5番のひと振りに先輩たちが乗る。10年目の上田、12年目の北道とベテラン勢も適時打を放つなどこの回計6安打を集中させた。2点差に追い上げられた直後の八回には上田が左越え本塁打を放ち、悪い流れを断った。